

令和6年度第8回藤沢市市民活動推進委員会議事録

1 日 時

2024年（令和6年）12月14日（土）午後1時～午後3時41分

2 場 所

藤沢市役所 本庁舎5階5－1会議室

3 出席者

（1）委員 12人

山岡委員長、坂井副委員長、大高委員、大場委員、鍛地委員、関野委員、新實委員、西村委員、笛木委員、細沼委員、水戸委員、森田委員

（2）プレゼンテーション参加団体 6団体（3事業）

- ・一般社団法人 藤沢起業家支援まちづくり協会、藤沢市産業労働課
- ・六会リトルアンサンブル（MLE）、藤沢市教育委員会教育指導課
- ・特定非営利活動法人 湘南マンション管理組合ネットワーク、藤沢市住宅政策課

（3）事務局 5人

木村参事、森主幹、緒方専任上級主査、伊佐治主任、土倉職員

（4）協働コーディネーター 2人

（5）傍聴者 11人

4 議 題

令和6年度ミライカナエル活動サポート事業協働コースの審査選考（プレゼンテーション審査）について

（1）プレゼンテーション（公開）

（2）審査選考（非公開）

5 開催概要

開会

藤沢市市民活動推進委員会

藤沢市は、他の自治体同様に、いろいろなビジネスコンテンツとか、創業塾とか、創業、ゼロを1に、これから創業する方の支援を、たくさんいろいろなことをやっていて、そういった支援制度は充実してきていると私も感じています。

ただ、実際、現場にいて思うのは、もちろん創業すること自体も大変なのですが、起こした事業を軌道に乗せたり、軌道に乗せた事業をさらに上の段階に引き上げていく成長というのが創業の一番大変なことですし、それに挫折してしまう起業家さんとか、成長で苦労されている企業さんを実際に現場でいっぱい目にしてきました。

そういった中で、今の状態の行政はそういった方々への支援が充実しているかという、必ずしもそうではないという課題を認識して、今回こういった提案をさせていただくに至っています。

私たちが考えているのは、創業した方々を集めて、そういった方々を、事業を軌道に乗せたり、軌道に乗せた事業をさらにもう一段階上に成長させていくというところを、官民一体となって支援していく、後押ししていくような仕組みを事業化することができれば、もっとおもしろいことになるのではないかと考えました。

そして、その事業はもちろん事業化しているので、継続してできるかと思います。それを継続していくことで、高い志を持った起業家のコミュニティを藤沢市内につくり出して、今後どんどんこういった既存の支援制度を使って起業してこられる未来の起業家たちを、そのコミュニティの先輩起業家たちが引っ張り上げていくようなエコシステムをつくり出せば、藤沢が起業の先進地域としておもしろいことになるとともに、市内にもっとすばらしい企業が生まれたり、働きやすくなったり、企業の市内定着なども図れるのではないかと考えました。

詳しい事業内容については鈴木さんから説明いただきます。

(藤沢起業家支援まちづくり協会) それでは、ここで今回提案するのが「湘南版事業再燃 BizCAMP」と題した起業家・創業者の成長を支援するための研修プログラムとなります。

まず、全体像の説明ですが、全7回の研修プログラムになっています。第1回目から第6回目までは、インプットとアウトプットを繰り返すセッションをします。最終日は5年の中期計画を観衆の方全員の前で発表するという全体の計画になっております。

まず、プログラムのゼロ回目は、プログラム1回目の前の準備段階として、告知方法やオリエンテーションを組み込もうと思っています。

まず、告知方法に関しては、委員の皆様からのご意見を参考に、告知のタイミングや方法を変更いたしました。告知のタイミングとしては、事業年度の5月に、このように書いてあるさまざまな媒体で広く公開告知を行います。そこから、9月、初日が合宿になるのですが、その前の参加のハードルを下げるために、オリエンテーションを開催します。

ここから、1回目のプログラムの説明です。

1回目は合宿からスタートします。この合宿の内容は、とことん自分と向き合うことからスタートします。毎回テーマを設けていて、まず「自分を知る」ことから始めます。ぶれない自分の軸を見つけるための原体験ワークとか、パーパス経営に欠かせないミッション・ビジョンの深掘りをしながら、参加者同士が同じ場所、同じ空間で自問自答と自己開示、対話、語りを通して同期の絆を深めていく。同期の絆を深めるというのは、後のコミュニティづくりの柱になっていくと思っております。

また、合宿場所に関しては、宿泊が難しいなど特別な事情がある方も想定していますので、日帰りで参加可能な合宿場所を選定しております。

また、今回の研修に関しては、次回の研修までの課題も出します。

第2回目は「湘南を知る」というテーマで、課題発表から始まります。

3分の発表からフィードバック1分としますが、フィードバック者は参加者の中でランダムで決めていきます。また、このフィードバックが重要で、他業種からの思いがけないフィードバックとか、発表自体を自分ごとのように聞く、それが仕掛けになっています。同期の絆が強くなって、熱量の高いコミュニティ形成につながっていくのではないかと考えています。

また、後半は、産業労働課さんから1コマ講演をいただきまして、市が行っている4つのまちづくりと人口流動の話をしていただきます。市が1コマ持つというのは、起業家支援のプログラムの事例としては大変珍しい。そこから市のバックアップ体制が伝わって、愛着を持っていただけのではないかという仕掛けでございます。

また、後半に関してはフィールドワークを計画しています。湘南で実際に活躍されている大手企業の方とか、先輩起業家の方に実際に触れていただいて、刺激を受けて、次回の課題に取り組んでいただきたいと思います。

3回目は「アイデアを出す」というテーマを掲げています。

3回目も課題発表から始まりまして、1カ月の課題は、本当に自分に向き合う機会を

つくるという目的と、今回、アウトプットをするというところで、腹落ちをさせていくという狙いがあります。

後半に関しては、中間発表に向けた事業計画書の策定の方法などを具体的に学んでいく機会になります。ここでは、この2人の講師から、フレームワークを使いながら、顧客や事業のターゲットの整理とか、資金調達計画など、より実践に向けた具体的な座学を学んでいきます。

4回目は中間発表です。テーマは「アウトプットする」。テーマどおりです。

この段階では、最初のプレゼンで発表する内容を100%とすると、恐らく20~30%の仕上がりです。ただ、この中間発表の仕掛けとしては、起業家支援の第一線で活躍されているこの3名の方から、具体的により濃いフィードバックを受講者に聞いていただくことで、次回の課題に向けて向き合っていただくこと。あとは、全員のプレゼンが終わった後は、全参加者のプレゼン終了後に3チームに分けて、各講師の方と座談会みたいなものも計画しております。

5回目の課題発表は、前回の濃いフィードバックから、どのような改善策を出していくのか。この期間は、自分の強みと弱みを再確認していただく期間と考えています。

テーマは「動き方を決める」と書いてあります。今回、後半の講師は、地域の先輩起業家に、売り上げの幅と種類で1テーマ、売り上げの高さと深さで1テーマ、2テーマを話していただきます。具体的な行動計画と販売戦略を、幅、種類、高さ、深さから意識していただいて、今回の課題に取り組んでいただく。この段階で、徐々に中期計画の形ができている状態になっています。

6回目は「心に灯をともし」というテーマを掲げていますが、最後の座学です。講師は、藤沢のベンチャー企業の株式会社 Lively の共同創業者の成瀬さんという方です。私も以前、成瀬さんの講演を聞く機会がありましたが、本当にすごい、心に響く、心に灯がともるプレゼンをしていただきました。これはぜひ、これから活躍する起業家の方に聞いてもらいたいと私自身が思ったので、最終プレゼン前に成瀬さんの挑戦学を聞いて、最終日に向かうマインドセットをしていただきたいということで、この機会を設けています。

そして最終日はプレゼンターに注目が集まるように、輝ける場所としてはFプレイスのホールで実施したいと考えております。具体的なイメージ画像はこのように書いてありますが、プレゼンターとプレゼンの内容がフィーチャーされるような場所を考えてい

ます。

また、プレゼンは、発表が7分でフィードバックが2分。そのフィードバックは、講師とか関係者から、より愛情とエールを込めてフィードバックしてもらうことを考えています。

プレゼンターは、事業を拡大するために企業創業当時の熱い思いを思い出して、ぶれない軸と自信を持って中期計画を発表していただく。これが起業家が一番輝く日になるので、その最終日に藤沢市長にもお越しいただいて、藤沢市との関係性を深めていただきたいと思います。また、藤沢市のバックアップから、参加者と行政の距離を縮めて、地域に愛着を持っていただけると思っています。

この最終プレゼンをいいステージにするためにも、約半年間、伴走してくれるメイン講師は、この3名を計画しています。メイン講師に女性がいることで、女性も参加しやすい環境整備につながるのではないかと思います。また、本研修のプログラムは全体で約40時間ありますが、メイン講師はそれプラスアルファの、それ以外の準備や受講者のフォローアップの対応もしていただく。

あとは、講師の謝礼の再検討も行いました。参加者のフォローアップをメイン講師が行うことで、謝礼全体の圧縮を図りました。

そして、具体的な成果は、2年間で22社の事業拡大を支援、また3年目以降、毎年20社を継続支援して、5年後には累計80社以上。さらに、プログラム受講者によるコミュニティを形成して、年数を重ねるごとに層の厚みがあるコミュニティをつくりたい。それが、藤沢市が、起業家を後押しする地域として、起業家が事業拡大して、市内定着につながるのではないかと思います。

また、この事業の3年後のミライとしては、藤沢市がさらに起業・創業を支援してくれるまちとなり、それが起業家・創業者やフリーランスが働きやすいまちとなる。そこから、新しい製品、新しいサービス、新しい価値が生まれ続けて、雇用・人口の増加、企業の地域への定着、税収の増加、まちのにぎわいの創出になり、好循環が生まれるまちにつながってくるのではないかと思います。

ここからは、市のほうから、協働する理由をご説明させていただきます。

(産業労働課) では、私のほうから、市として協働する理由をご説明いたします。

先ほども少し話がありましたとおり、市では、成長段階に応じた創業支援に取り組んでおりますが、企業の成長のきっかけとなる、企業の成長を後押しする支援、さらなる

支援が必要であるとは考えています。

しかしながら、成長した企業、これは全ての成長企業ということではないのでしょうけれども、特に株式上場を見据えているような企業は、成長するとどうしても経済合理性とか人材確保のしやすさということで、事業拠点を都心部、東京、横浜に移転してしまう。これはもう、経済活動をする上で当然のことなのですが、そういうこともあって、支援すればするほど市外に転出してしまう可能性が高まってしまうというジレンマも抱えながら、市としては支援の取り組みをしているところです。

一方で、地域を基盤に、地域で事業をしていこう、地域に根差して成長していこうという企業もありますので、市としてはそういった企業を少しでもふやしていけるように、地域との交流を深めるとか、地域をより知っていただくことを通じて、市だけでなく、支援機関とか民間の専門家などと協働して取り組んでいくことが重要だと考えています。

なので、まさに今回の提案のように、官民連携して取り組むことで、相乗効果が発揮できると考えていますので、市としてもぜひ本事業を協働する形で取り組んでいきたいと考えています。

(藤沢起業家支援まちづくり協会) そこで、なぜ我々がこの事業ができるのか、そして3年後も継続できるのか。

当法人のネットワークは、藤沢市はもちろんですが、神奈川県や中小機構とも連携しております。神奈川県内のインキュベーション施設や公的支援機関のつながりもありまして、より深みのあるプログラムを実施して、収益基盤と持続性を高めていきたいと思っています。

また、本事業の実績とノウハウをもとに、参加者数と参加費用を増加して、あわせて地域の起業家や卒業企業から協賛金を募り、収益も安定させる計画で継続してまいりたいと思っております。

最後になりますが、「湘南版事業再燃 BizCAMP」の事業を通して、支援した多くの起業家・創業者が市内に定着して好循環が生まれた我々のまちに、いい企業がふえること、地域で起業する選択肢があることが、子どもたちのミライの選択肢をふやして地域で活躍できる環境設備をカナエルと信じています。

ご清聴ありがとうございました。

(森田部会長) ご発表ありがとうございました。

では、質疑応答の時間に入りたいと思います。時間が限られておりますので、質問も

応答もコンパクトにお願いできればと思います。

では、委員の皆さん、いかがでしょうか。

(坂井副委員長) ご説明ありがとうございました。2点、お伺いします。

1点目、最後に市から協働の理由を説明いただきましたが、実際に協働事業の中で市は何を担うのか、もう一回、お聞きしたい。

2点目、市の創業支援を現在やられているかと思いますが、その創業支援の対象はどこまでなのか、それを確認させていただきたいと思います。

(産業労働課) 今のご質問ですが、市が狙うところというか、この協働によって求めているところだと思います。

先ほどの繰り返しになってしまいますが、ゼロから1への立ち上げ支援は、今、市の創業支援の取り組みとしては主なところになっておりますので、さらに企業の成長を後押しする支援が、全体で見ると少し不足しているというか、十分ではないというところは認識しておりましたので、ぜひそういったところを官民連携でやらせていただくことによって、地域に根差した事業を行う企業を少しでもふやしていきたいというところが、市としてぜひやっていきたいと考えているところになります。

もう一つ……。

(坂井副委員長) 現在、市が取り組んでいる創業支援はどこまでが対象になるのか。創業するところで終わりなのか、その後も支援があるのかをお聞きしたい。

(産業労働課) 創業するところまでと縛っているわけではないのですが、現状、見え方として、創業、立ち上げのところまでの支援が主になってきているところがあります。

そもそも、創業支援の取り組みというのが、どちらかというところと広域行政というか、藤沢市という枠の中というよりは、圏域とか国全体で創業支援、起業家支援に取り組んでいるというのが基本にはありますが、市のエリアで創業支援をやっているというのが、政令市ではない一般市という中では、財政的な部分とか、人的な部分で、なかなか全てのエリアでは難しいというところがありましたので、今、ゼロから1というところを主にやらせていただいていますけれども、さらに今回の協働でそれ以降の部分をやらせていただければと考えています。

(坂井副委員長) 考え方としては理解しましたけれども、では1から10にするときに、市は具体的に何を一緒にやるのか。聞きたいのはその部分です。

(産業労働課) 一緒に取り組ませていただくということですが、当然、民間の知見、民間

がお持ちのノウハウがございますので、そこをぜひ受講者の方にはお伝えいただきたい。市ができることとしては、いろいろなチャンネルを使って広報していくことと、あとは、地元を知っていただくというところだと思っています。藤沢市というのはこういうところで、こういう課題があって、こういった特徴があるんだよというのをより認識していただくというところだと思っています。そういったところを市としてはぜひお伝えして、地域に根差した企業になっていただきたいと思っています。

(大高委員) プレゼンテーションありがとうございました。私から2点、質問というか確認をさせてください。

1つ目が、お金を払って研修を受講していただくということで、そもそも論ですが、お金を払って研修を受けるけれども、事業拡大とか継続のノウハウを学ぶ場で、活動としては、必ずしも事業拡大につながることを保障するものではないという理解をしているのかどうかをまず確認したいと思います。

2つ目が、先ほど奥村さんが自分に向き合うとおっしゃっていましたが、モチベーションの話をしているのではなくて、起業したけれども、その後の拡大の仕方がわからない、進み方がわからないということに重きを置いて研修をするのでいいんだよねというのが2つ目の確認です。

質問が、半年間の研修をした後、どういうフォローアップをしていくのか。研修して、はい、おしまいというわけではないと思いますので、もう少し、フォローアップはどのように進めていくのか教えてください。

(藤沢起業家支援まちづくり協会) まず、フォローアップに関しては、半年ごとぐらいに定期的に交流会を開催して、同期同士で進捗というか状況を確認することが必要かなと思っています。同じ釜の飯を食った人が、どれだけ自分より先に成長しているとか、もしかしたら自分が成長しているとか、そういうことを共有することで、経営者の方は孤独だと思いますが、そこで共有するということと、自分を俯瞰的に見て頑張るというのを定期的に仕掛けたいために、半年に1回の交流会を設けています。

あとは、これはまだ未確定ですが、公的なインキュベーションも含めて、半年に1回の面談みたいなものを行っています。それが半年1回できるか、1年に1回になるのかは、これから始めてみてですが、少なくとも1年に1回は財務諸表みたいなものになるべく出していただきながら、専門家である我々がそこを見ながら、研修を受けていただいた起業家の方がどういう課題を持っているのか、その課題に対して我々はどう支援が

できるのかというのを、先ほどお見せしたネットワークの中で、我々も含めて一緒に伴走したいと思っています。

あとは、受講料をお支払いして、必ずしも約束できるというものでは当然ないと思います。そこは、一番最初のオリエンテーションのところで誓約書が何かに記載しながら、まず自分と向き合ってもらって、それで拡大してもらうことが肝ですので、我々が保障するものではなくて、自分たちで見つめ直して拡大していただくというところに重きを置いています。

(藤沢起業家支援まちづくり協会) あと、成長のやり方なのかモチベーションなのかみたいなお話があったと思いますが、私自身はもちろん両方だと思っています。より重要なのは、その人たちが行動に移せるということだと思います。

創業してしまうと、日々の事業に追われて、次のことを考える間もなく毎日がぐるぐる回っていく。ただ、こういったものに申し込んでいただいて、じっくりと見つめ直す時間、自分が将来どうなりたいのか、事業をどこに持っていきたいのかということを見つめ直す時間をつくって、さらに仲間も集めて、行動しやすい環境をつくっていく。

藤沢市さんには、藤沢で起業しているからには当然お客さんは藤沢にいらっしゃると思うので、そういった定量的なデータとか、マーケティングに役立つようなさまざまな情報とか、ましてや藤沢で既に成功している起業家とか大企業はいっぱいいらっしゃるので、そういった方のネットワーキングとか、藤沢市さんにはそういったご協力もいただいて、この事業が進められたらすばらしいものになるのかなと思っています。

(森田部会長) あと1件くらい、いかがでしょうか。

(新實委員) 参加者のハードルを下げるためにオリエンテーションを加えてくださったこと、とても私はうれしいです。ありがとうございます。いいスタートが切れると思います。

あと、参加者を選定するという言葉がありましたが、希望者の先着順ではなく選定する。この選定の基準をお知らせいただきたいと思います。それから、合宿所は藤沢市内で探されていると思いますが、もう決まったのでしょうか。この2点です。

(藤沢起業家支援まちづくり協会) まず、合宿所に関しては、まだ確定はしていません。市内を中心に、今、探している段階です。

あとは、選定という言葉がちょっと強かったのかもしれませんが、まず、マックスが20名ぐらいかなと思っているところで、ありがたいことにもしそれ以上の応募が来た

場合、その中でどういう基準があるかというのは、まず事業を何年間されているかとか、それが一定のハードルとして、3年以上事業を継続されている方とか、フリーランスでも青色申告を必ず出している方というのが参加基準になりますので、そこを満たしていない方はダメですよというので、選択という言葉を使ってしまったが、一応そのような形で考えております。

(森田部会長) ほか、いかがでしょうか。もう一件くらい大丈夫です。

(山岡委員長) ちょっと違う視点ですが、ミライカナエルは市民活動支援の事業で、市民活動の公益性をどう考えるか。いろいろな観点があるのですが、1つは、多くの市民に支えられている、応援されている、必要とされているということがあります。

こちらは一般社団法人で会員は個人会員が4名ということです。一般社団法人だから人数的には問題ないのですが、この会員はどういう人たちで、これから会員をふやしていく考えはあるのか教えてください。

(藤沢起業家支援まちづくり協会) 会員はこれからふやしていくつもりです。その内容としては、今回の講師とか、研修に参加していただいて、この取り組みに賛同していただいた方をどんどん会員として迎え入れさせていただきたいと思っています。

(山岡委員長) 今の時点でも常に募集はしているのでしょうか。

(藤沢起業家支援まちづくり協会) 大っぴらに募集はしていません。

(森田部会長) ほかはよろしいでしょうか。――では、ちょうど時間になりましたので、今回のプレゼンはこちらで終了といたします。どうもありがとうございました。

(藤沢起業家支援まちづくり協会) ありがとうございました。

(森田部会長) それでは、団体の入れかえをお願いしたいと思います。

(団体入れ替え)

②六会リトルアンサンブル (MLE)、藤沢市教育委員会教育指導課

(森田部会長) 続きまして、六会リトルアンサンブルさん、藤沢市教育委員会教育指導課の皆さんです。「子供達を地域で育てる吹奏楽文化の振興」についての発表です。ご準備をお願いいたします。

(六会リトルアンサンブル、教育指導課)

○自己紹介後、パワーポイントが提示された。

(六会リトルアンサンブル) それでは、早速始めたいと思います。主な事業の計画をごらんください。事業計画をごらんになりながら聞いていただければ幸いです。

本事業については、3つの事業を中心に行ってまいりたいと考えています。後ほど事業とその役割についてご説明させていただきます。その前に、あらかじめいただいた質問にお答えしたいと思います。

まず、中学生市民バンドについてのご質問です。具体的に想定している団体の代表、副代表は中学校の教員だった方で、吹奏楽部の指導に長年携わってこられた方です。また、事務局は元中学校吹奏楽部にお子さんがいらした保護者の方、複数の中学校で吹奏楽の楽器指導に携わってきている方の5名を想定し、既に同意を得ています。さらに、活動をサポートしてくださる楽器講師やサポートスタッフを担ってくださる方にもお声かけをしているところで、10名程度のスタッフで活動していく予定です。活動についての具体的な内容は、今後、中学生バンドのメンバーと検討していきます。

次に、楽器についてです。現在、六会リトルアンサンブルが所有している楽器は、ほとんどが寄附や中古品です。講師や知り合いから借りている楽器もありますが、市民活動として行うには、個人の負担では高額過ぎることもあり、できる限り団体に準備していきたいと考えています。予算にチューバを計上していますが、貸していただける状況であれば、そのようにしていきたいと考えています。楽器はバンド活動をしていくために必要なものです。学校からの借用、委員の皆様からいただいたご意見のように、個人の寄附を募るなど、工夫していきたいと考えています。

次に、中学生の部活動の実態と活動拡大の計画のプロセスについて、お話ししたいと思います。現在、中学校の生徒数は、学校によってかなり差があり、部活動が成り立たず、廃部を余儀なくされているところもあると聞いています。吹奏楽部も、1学年5名とか7名と聞くと、合奏が成り立たず、心配な状況です。

藤沢市の中でも高倉中、善行中、大清水中などは、来年度、各学年3クラス予定と少なく、早く部活動を地域に展開してほしいと校長先生も切望しています。ほかの部活動でも、近隣の学校と合同チームを組み始めています。まずは、人数がそろわず活動に支障が出てきているところからお声かけしていきたいと考えています。部員が減少している現状を、できることから進めてまいります。

将来、全市的に部活動が移行していった場合は、北部、中部、西部、南部の4カ所あたりで活動を広げていければよいのではないかと構想しながら、この2年の事業の足

がかりとなる中学生バンドを応援し、活動の姿を見せていきたいと思います。活動していった暁には、ご意見でいただいたように、全地区にある三者連携、コムスク（コミュニティ・スクール）など、地域のたくさんの団体と協働していく姿が見えてくると考えます。

次に、小中学生の市民バンドと協働する教育指導課とのかかわりについてです。後ほど詳しく教育指導課から説明がありますが、教育指導課は吹奏楽部だけでなく、部活動地域移行・地域連携について、藤沢市でどう展開していくかについて、2年ほど前から取り組んでいます。今年度は、その推進協議会に私も参加させていただき、市民活動団体としてできることについて、考えをめぐらせています。小中学生の健全育成という視点でかかわるとき、教育指導課の協力は不可欠です。委員の皆様のご意見、アドバイスいただいたように、この部活動地域移行・地域連携という大きな事業に市民活動側からアプローチできる絶好の機会だと思っています。

次に、アンケートの実施についてです。今年度の部活動地域移行・地域連携推進協議会（部活動地域移行推進協議会）で、生徒、保護者、校長、教職員にアンケートを実施しています。その内容も参考にしながら、終了時のアンケートについて、委員の皆様からのご意見も参考にさせていただき、内容を検討していきたいと思います。

次に、⑥の部活動の地域移行・地域連携の必要性和意義については、後ほど教育指導課よりご説明いたします。

それでは、実際の事業についてお伝えしていきます。

まず1つ目は、このミライカナエル活動サポート事業に取り組むことを通して活動内容の説明や、活動に対する理解を促進してまいりたいと考えています。六会リトルアンサンブル、中学生市民バンドについての保護者に向けての説明会も必要だと考えます。また、小中学校に向けての説明も必要なので、校長会を通して、その事業について、中学生の活動の一助となるようにお伝えしていきたいと考えています。

また、チラシ・ポスターの作成、配布についても、委員の皆様からいただいたご意見を参考にしながら、なぜこの活動につながっているのかについてお伝えしながら、広報活動を進めていきます。

次に、アドバイザーによる実態検証事業についてです。

小学生の市民バンドの団体の代表が、ひとりよがりには物事を進めていくのではなく、現在、全国で進行している部活動の地域展開の状況について、文化庁の会議にも参加さ

れている齊藤さんにご意見をいただきながら、実際に活動している様子を見ていただきたいと思います。中学生バンドを設立していく上でも、教育指導課の役割、2年間の観察の記録、いわゆるモニタリングについても、どのように行っていくことが、この藤沢市の子どもたちにとってよい形で定着し、進めていくことができるか、相談していきたいと考えています。

次に、活動公開実施事業についてです。

こちらは、六会リトルアンサンブルの活動を見ていただくだけでなく、中学生のバンドの立ち上げや、どうやって活動していくことが子どもたちにとってよいのか、集まった人数に応じて試行錯誤しながら取り組んでいきたいと思っています。中学生のバンドの代表ともそう話しています。私自身は、中学校の教員として30年近く吹奏楽部の顧問を務め、小学生のバンドを10年やってきた中で、生かせることは必ずあると感じています。

地域の皆さんに演奏を披露し、拍手をいただいた瞬間、達成感のある笑顔があふれます。地域で子どもたちが育っていく様子を、幼児からお年寄りまで見ていただける機会は、その都度、子どもたちにとって大きな心の財産をつくっていきます。

(教育指導課) それでは、協働相手として携わらせていただきます教育指導課の役割について、ご説明させていただきます。

まず、部活動の位置づけですが、中学校の学習指導要領には、生徒の自主的・自発的な参加により行われる部活動については、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること、その際、学校や地域の実情に応じ、地域の人々のご協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携など、運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制が整えられるようにするものと期待されています。

本市は、現在、部活動地域移行に取り組んでいるところではありますが、今の本市の中学生にとって部活動参加の機会が損なわれることのないよう、必要な手だてを講じていくとともに、これからの本市の中学生が多様なスポーツ、文化芸術活動に親しめるよう、学校部活動の地域への展開を段階的に進めていく必要があると考えております。そのため、教育指導課と生涯学習総務課を初めとする市長部局とで協働し、藤沢市部活動地域移行推進協議会事務局を運営し、スポーツ・文化関係団体代表や学校代表の委員の皆様、本市の部活動地域移行の具体的な方向性や課題の整理等について、協議を進めていただいているところでございます。

(教育指導課) 教育指導課といたしましては、六会リトルアンサンブル様と協働コースにおきまして、パワーポイントにお示しするような役割を通しまして、今後の本市の部活動等地域展開のあり方を検討していく際の根拠となるものを探っていきたいと考えております。

具体的な取り組みですが、現在、市民団体として活動している六会リトルアンサンブル様が、今後、立ち上げ支援を検討している中学生市民バンドに、市民の中学生がどのようにかかわっていくのかというところをモニタリングしていきます。現在、在籍校の部活動に参加している生徒が市民活動へ参加することのよさだったり、また、この活動を拡充することが可能であるのかどうか、あとは中学校の市民バンドが部活動の地域展開のモデルになり得るものなのかというところも、さまざまな視点で検証を重ねていく予定となっております。

生徒が、学校外での活動に参加することについては、実生活や実社会で生きた文脈の中で、さまざまな価値、自己の生き方について考える機会となることが期待されています。また、多様な学びを経験する場、あとは、みずから興味関心を深く追求する機会などの充実にもつながるものと思っております。

9月には、教育長が議会の答弁の中で、「部活動の地域移行を行うに当たっては、ただ部活動を学校から切り離して地域に移せばいいということではなく、学校と地域が藤沢市子どもたちのためにという思いを共有して、これまで培ってきた部活動の理念、意義、経緯などを踏まえて、それぞれの地域の特性や特色に合った藤沢型の部活動の地域移行を進めていく必要がある」と答弁しております。

このことから、藤沢市子どもたちにとって望ましい部活動のあり方について検討を重ねる上で、本事業を通した教育指導課が担うべき役割は、六会リトルアンサンブル様の取り組み状況について、モニタリングを行うことであると考えております。どうぞご理解いただけますようお願いいたします。

(六会リトルアンサンブル) ミライのために、どんなイメージを持ってこの事業を進めていくのかについて、お話しします。

計画に沿って中学生のバンドを立ち上げていくお手伝いをしていこうと考えていますが、現実には中学校としてまだ部活動を行っている状態で、活動に困難が生じているところをサポートしていく内容になっていくと思います。その活動の姿から 10 年後を想像できるように、小学生のバンドを立ち上げたときのように、こつこつと地道な活動の

展開をサポートしていきたいと思っています。

ご意見にもあったように、市民活動として吹奏楽を行っていく意味は、部活動にかわる、なるべくお金のかからない活動、学校で展開できる活動だと考えます。受益者負担ももちろん必要ではありますが、誰でも参加できる部活動にしていくためにはさまざまな課題があると思います。その一つ一つを指導課とともに検証し、問題を提起し、子どもたちを地域で育てる吹奏楽文化の振興に尽力してまいりたいと思います。

今までの活動の様子の写真が入っていますが、湘南台の地下道で市民活動のパネル展示をしました。そのときつくったのが右側で、左側は、今まさにきょうから市役所の1階に展示している展示物ができ上がったときの満面の笑顔です。

おわりに、今回たくさんの質問、ご意見、アドバイスをいただいた委員の皆様にご感謝申し上げます。何より、私自身が大変勉強になりました。いただいたご意見を活用しつつ、2年間、活動を展開してまいりたいと思います。

活動を見ていただく機会もたくさんあると思いますので、ぜひ今後も見守っていききたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

(森田部会長) ご発表ありがとうございました。

では、質疑応答の時間に入りたいと思います。同じく13分になりますので、コンパクトにお願いいたします。

(関野委員) ご説明ありがとうございました。

部活動の地域移行に関しては、私も文化部のほうが運動部より遅れがちであるということは耳にしていますが、どちらかというと、文化部の中でも人数がかなり必要という制約があって、特殊な事例かと思います。どちらかというと教育指導課さんへのご質問になると思いますが、六会リトルアンサンブルさんが協働相手として望ましい理由みたいなものがあればお伝えいただければと思います。セレクトするのだと平等性が逆になりからとか、そういう当たり前の理由でも結構ですので、よろしくお願いします。

(教育指導課) ご質問ありがとうございます。今ご指摘いただいたように、スポーツと文化でいうと、スポーツは本当にさまざま地域で活動しているスポーツ団体が受け皿になってくれる可能性が、今、本市が行っているモデル実証でも、少し見えてき始めていますが、文化は本当になかなか難しいところがあって、これは本市に限らず他県、他市町の教育委員会の担当者等とも情報交換をすると、本当に文化の受け皿はまだまだひもづくところが難しいなというところがありました。

今回は長田様から六会リトルアンサンブルの 10 年にわたる実績、小学生版の市民バンドは県内でも非常に珍しいというところと、中学生たちの地域の活動への参加という実績等があります。我々もどうやって文化を進めていったらいいのかと困っているときに、まだスポットで、行事等ではありますけれども、中学生が小学生とともに活動する姿を教えていただきました。この姿を私たちがもっともっと深掘りしていくことができるのであれば、将来的な文化部の地域展開につながるのではないかと。お声かけいただいたタイミングと、我々が困っていたタイミングが重なったというところで、今回の事業への立候補となりました。

(関野委員) 実績と、それを確認されたということですね。

(教育指導課) はい。

(大場委員) ご説明ありがとうございました。

私は藤沢地区に長く住んでおりまして、湘南ドルフィンズというとても有名なバンドも小学校から中学校で、中学校の吹奏楽が担い手になっているようなところもあります。

今後、この事業は全市的に取り組まれるものだと思います。今回は六会リトルアンサンブルさんと市の協働になりますが、その先の未来というか、そのあたりのことがもし構想にありましたら、教えていただきたいと思います。

(六会リトルアンサンブル) さまざまな選択肢があると感じています。南のほうには、今お話があったようにドルフィンズさん、それからジュニアオーケストラさん等がいらっしゃいますが、それぞれ団体としてはかなり長く活動を続けていらっしゃいます。ドルフィンズさんは小学生が多くなっていますが、オーケストラのほうは人が集まらないという話も聞くので、いろいろな選択肢があるということが市民にとってはいいのではないかと思います。

こういう市民バンドでお金のかからない形でやっていくのもあり、他地区では、それこそクラブ的に、お金も取るけどうまくするよみたいな団体があるという話も聞きます。それも含めていろいろな選択肢がある。今、本当に目の前にいる中学生に伝えていきたいというか、こういう形で、とにかく中学校の間を過ごしていくということが、前に進めていく 1 つになるという選択肢を提供したい気持ちでいます。

(大場委員) 市の方にも聞いてみたいのですが、全市的に、今、小学生を対象としている人たちに声をかけていこうとしているのか。皆さんで足並みをそろえることが望ましいのかなと思ったりもしますが、そのあたりは、今のところはいかがでしょう。

(教育指導課) 先ほど7ページの図を見ていただいたかと思いますが、最終的には本市のあらゆる地域の中学生で吹奏楽やバンドをやりたいという子たちがアプローチできるものというところですが、入り口のところでは、いきなり全市的に声をかけて始めていこうということも頭の片隅に入れながらも、まずはできるところからということで、六会リトルアンサンブル。

それから、立ち上げ支援ということで中学生市民バンドも長田様のほうで構想されているということです。先ほど校長会等に説明とかありましたけれども、決してある地域に限定して周知するのではなく、校長会を通して全中学校の中学生の子たちが知る機会が必要なことかなと思っております。

できるところから始めていくというところと、こういうことをやっていますよ、やりますよということは、機会を捉えて指導課としても協力していきたいと思っています。(大高委員) プレゼンテーションありがとうございました。私から2つお話しさせてください。

1つ目は、学校の部活動を地域移行するというところで、学校の先生の負担が減るとか、もちろん子どもの人間形成も引き続きできるということで、個人的には非常にいい活動だなと私はすごく思っています。ぜひやっていただきたいという思いがあります。

きょう来る前に調べてくればよかったなと思っていますが、先ほど野口さんから、他県、他市と情報交換されているとお話しされていましたが、類似した活動は、他県、他市では具体的にどこまでこういった話が進んでいるのか、もし情報があれば参考に聞きたいと思います。

もう一つは、これは興味で聞くのですが、今後の活動で、コンサートとか演奏会とかライブとか、いろいろ書いてありますが、モチベーションを上げるということで、例えば何かのコンクールに出るとか、目指すはNHKだとか、そういう高い目標とかがもしあったら、意気込みみたいなものを教えていただければ、参考にしたいなと思っています。

(教育指導課) 1つ目はこちらから。他県でこういった活動があるのかどうかというご質問をいただいたと思いますが、市民活動で地域移行というのはあまり聞いたことがなくて、国が主催した全国の担当者が集まる会議にも私はことし2月に参加してきていますが、市民活動という言葉はなかなか聞いたことがないなと。実証事業という形でやっている、そこで参加費をどうするとか、そういった話はよくあるのですが、既にある活動

にいろいろな子どもたちが参加するというのは、すごく斬新な取り組みにも感じています。

(六会リトルアンサンブル) モチベーションを上げるためにというところです。

中学生の場合には、それぞれの部活動で結構コンクールに出ていると思います。コンクールに向かっていくときにかなり技術が上がっていきますので、コンクールはとても意味のある行事だと思います。

小学生、中学生も、市民活動は自主的な活動だと思っているので、どのようにしていきたいかという子どもたちの意見は必須だと思っています。やりたいということになったときは考えていこうかなと。

ただ、市民活動としてやり始めて私が一番感じるのは、人の前で演奏するというものの、子どもにとっての1回の大きさです。六会リトルアンサンブルは、この前、湘南台のアトスクエアのときにも、1人ずつ吹かせています。まだ8月に入ったばかりの子が、あの地下道の通路で、伴奏もなく1人で吹いています。でも、そこで1回吹いた。そして終えた後の笑顔と、次の練習に来たときにスキップしているのです。活動しているときに。

だから、この1回にすごく意味があると思うと、その1回をつくっていくために大人ができること。それから、子どもたちにいろいろ決めさせるけれども、それを達成していくことに非常に意味があると思っています。コンクールも、もちろん1つの方法としてはあると思います。そこは実際にやりながら考えていくところかなと思っています。

(笛木委員) プレゼンありがとうございました。

条件というか、今のお話だと、部活動で吹奏楽部がないとか、人数が少ないから、その受け皿的なところも話されていたと思います。そうではなく、部活をしっかりやっていて、でも市民バンドに参加したいという方もいると思います。条件としては、なかなか難しい人だけでなく、参加したい人はみんなオーケーということでもいいのですか。

(六会リトルアンサンブル) もちろんです。困っているところに、とにかく1年でも2年でも、そのまま終わってしまうというのが、もともと教員として我慢できない。何とかしてあげたい。でも、子どもの中には、陸上部に入っているけど音楽も好き、週に1回、吹奏楽をやりたい、僕もやらせてほしいという子はいると思います。それは土曜日の午後に想定していますが、そこでやりたいということと、保護者の方の了解があれば、できる状況はつくれると思うので、ぜひ参加してほしいなと思っています。

(笛木委員) 教育指導課の方ですが、これは吹奏楽部なので文化部門です。レアケースかも知れませんが、もし運動系で同じようなことがあったら、それも土台になるのかなと思いました。

(教育指導課) 私たちは今回、モニタリングという立場での協働ですが、今おっしゃっていただいたような、もしこれが何かの運動の種目で、地域発意で、運動するものに中学生にもっと参加してもらおう。例えばスポーツ少年団とか、既にあるものがたくさんありますが、その地域の子どもたちだけでなく、もうちょっと広く困っている子も、もしくは、ほかの種目をやっているけど、さらに2つ目、3つ目のかけ持ちをするということも、今まではしにくい状況もあったと思いますが、そういった考え方が汎化されていくという意味でのモニタリングの効用もあるのかなと思いますので、そういったことがつながればいいかなと思います。

課としての見解というか、半分個人的な見解になってしまいますが、そのように思っております。

(鍛地委員) 端的に、どなたでも参加できるようにというところを目指しているとか、藤沢の新しい部活動の形というところがありましたが、例えば養護学校の生徒さんとか、障がい者の方とか、そういった方も参加することは可能でしょうか。それも想定されているかということをお聞きしたいです。

(六会リトルアンサンブル) 実際に藤沢養護学校の校長先生からお話がありました。十分可能だと思います。

ケアをするために必要な大人は必要だと思います。そのための手だてをどのようにしていったらいいのかということは、保護者の方とよく相談していかなければいけないと思いますが、たとえ一発ゴングをブーンとやるのでも、一緒に参加するということにもすごく意味があります。障がいだけでなく、いろいろな特質を持ったお子さんがたくさんいますので、その子たちがその子のカラーで参加できるということが、バンドのすばらしいところだと思っているので、十分可能だと思います。

(森田部会長) 時間が来ましたので、一言だけ。

(新實委員) いつもご活動ありがとうございます。

1つ質問は、アンケートをとるとおっしゃっていましたが、生徒さん、保護者、ボランティアスタッフの方、そして校長、教職員、それ以外に、地域移行なので、全く関係のない一般の地域の方にもアンケートをとらないと地域に浸透しているかどうか、

あるいは地域の方がどのような視点で見ておられるのかが必要だと思いますので、対象にはそこも含めていただきたいということです。

あと、藤沢市型を目指されているというのは、これから模索されていくと思いますが、藤沢市は市内に私立の学校もあり、交通の便もいいので、割と遠くまで私立の学校に通っているお子さんたちもおられます。そうした場合、遠くの学校で部活をするのではなく、地元の地域クラブに入りたいという場合もあると思います。その私学に通っているお子さんに対してはどのように門戸が広がっているのかどうか、確認させてください。
(六会リトルアンサンブル) 市民活動なので、市民であれば誰でも参加できます。
(森田部会長) では、時間となりましたので、こちらで発表は終わっていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

(団体入れ替え)

③特定非営利活動法人 湘南マンション管理組合ネットワーク、藤沢市住宅政策課

(森田部会長) 続きまして、特定非営利活動法人湘南マンション管理組合ネットワークさん、藤沢市住宅政策課の皆さん、ご準備をお願いいたします。「マンション管理組合運営の活性化支援事業」についてのご発表になります。

○事務局から、資料の一部訂正の連絡があった。

(湘南マンション管理組合ネットワーク、住宅政策課)

○自己紹介後、パワーポイントが提示された。

(湘南マンション管理組合ネットワーク) それでは、協働コースの事業テーマであります「マンション管理組合運営の活性化支援事業」について、説明させていただきます。

最初に、協働の相手方である藤沢市住宅政策課から、市のマンションの現状などについて、説明をいたします。

(住宅政策課) まず、藤沢市の分譲マンションの現状について、お話しさせていただきます。

市内には、現在、約 850 棟の分譲マンションがございまして、戸数にすると約 3 万 2000 戸ございます。左のグラフは建築年別に示したものです。建築後 40 年を超過したマンションは 2 割以上ございます。次に、分譲マンションに住む人の年齢を右側の円グラフで示しております。分譲マンションのうち 4 割以上の住戸が 65 歳以上の高齢者で

あることがわかります。この2つの割合ですが、共通することは、年を追うごとにそれぞれの割合が増加していくということになります。

このように、市内の分譲マンションは、建物の老朽化と居住者の高齢化が同時に進行しているという状況にあると言えます。

このような状況を放置すると、この写真のようなマンションが市内に出現してしまうおそれがあります。幸いにもこのマンションは藤沢市のものではございませんけれども、居住者がおらず、また適切な管理がなされないまま劣化が進みまして、ついには行政が所有者にかわり、税金を使って解体する行政代執行というものが行われるまでに至ってしまいました。

こうなってしまうと、地域の価値を損ねたり、地域住民の安全性を脅かすだけでなく、税金を使って解決せざるを得なくなります。こうすると、マンションの所有者以外の市民全体にまで影響が及んでしまいます。

本来、マンションを主体的に管理するのは所有者でありまして、また管理組合になりますけれども、藤沢市が実施したアンケート調査によりまして、このような管理組合の実態が明らかになっています。多くの分譲マンションでは、管理組合だけで現状の課題を解決することが困難になってきています。

そこで、藤沢市では、2023年12月に、マンション管理の適正化を推進するための計画を策定しました。その中で、藤沢市の役割をこのように示しており、特に下2行にありますとおり、関係団体との連携や専門家との連携によってマンション管理組合に対して効果的、能動的な関与をしていくことが重要だと考えております。

一方で、我々住宅政策課が実務上抱えている課題としては、マンションの管理組合に対して能動的な働きかけをするためのマンパワーが不足しているということが挙げられます。さらには、マンションの管理や運営を円滑化するために必要な専門知識、または経験を持ち合わせていないということが課題と感じております。

今回、協働する湘南マンション管理組合ネットワークは、マンションの管理組合の支援を目的として、専門家が所属する団体でございます。また、これまで管理や運営に関するさまざまな支援を積み重ねてきております。長年の活動によりまして、多くの知識とネットワークを有する団体でございます。

藤沢市と同団体とは、同団体が継続して開催しているセミナーなど、それを藤沢市が後援するという関係性でございます。これらの背景をもとに、今回、パートナーとして、

事業の提案をするに至っております。

(湘南マンション管理組合ネットワーク) 7 ページです。藤沢市とNPO法人との協働事業の効果について、説明いたします。

左上の円の中にありますように、藤沢市は、当然のことですが、市民への信頼性が高く、また周知力もすぐれており、市民も安心していろいろな情報を受け入れています。さらに、マンションに関する情報を多く保有しており、現在はただいまの藤沢市の説明にもありましたように、マンションの管理の適正化に向けて能動的に支援を行う施策を進めているところであります。

一方、NPO法人は、設立以来 18 年にわたり、マンションの管理運営の支援に向けて活動してきた実績があります。左下の円の中にありますように、管理の支援に対して専門的なノウハウを保持しており、また管理支援へのマンパワーも保有しております。藤沢市とNPO法人は、このようなお互いのすぐれた立場を生かして協働して事業を行うことによって、業務に対する相乗効果が十分に発揮できるものと考えております。

8 ページです。マンションの管理運営の活性化に向けての活動の目的と目標について、説明いたします。

活動の理想的な目的は、マンションの管理の適正化の達成による良好な住環境の確保による安心・安全な地域社会の実現であります。このような目的を達成するために、今回の事業では、管理がうまくいっていない管理組合に対し、管理の運営を支援することによって、管理運営が事前の計画どおり、自主的な意識をもって活性化していくことを目標としております。

管理運営の活性化に向けた目標と活動の流れを、図の①から④の順に説明いたします。

活動の目的の①では、最初に管理のレベルごとに選定した幾つかのマンションについてヒアリングを行います。その中から支援対象に適したマンションを確定することを目標にいたします。

②では、支援が確定したマンションの管理組合とともに、管理の適正化に向けた実行計画を作成いたします。そして、支援活動を計画どおり進めていくことを目標にしております。

③では、支援が終了した管理組合の管理の質の向上や自主的な管理意識の向上などについて、その成果やさらなる課題を分析して、今後、多くのマンションの支援に対応できるような汎用性のある報告書にまとめます。

最後の④では、このような報告書をもとに、管理組合を対象とした報告会を開催し、また市内の多くのマンションの管理の運営に横展開して、多くのマンションがこれらの管理のノウハウを活用して、適正な管理ができるようになることを目標としております。

以上が、管理運営の活性化に向けて、目標と活動目標の説明でした。

次に、9ページでは、支援管理組合への活性化支援事業の流れと役割について説明いたします。

支援活動については、藤沢市とNPO法人が協働して事業を行います。それぞれの役割を明確にして、連携を取り合って事業を実施していきます。この表は、事業推進の段階を左から右に、第1段階から第4段階まで、4つのフェーズに分けて記載してあります。一番上の列は、事業推進の手順を記載してあります。次の真ん中の列は、NPO法人の業務の役割を記載してあります。一番下の列は、藤沢市の業務の役割です。NPO法人と藤沢市の列の間の矢印は業務の流れを示しており、また表の中の丸の数字は業務の手順を示しております。

まず、第1段階では、管理組合の管理の状況を把握するために、幾つかのマンションに対してヒアリング調査を実施します。最初に、①の藤沢市が市内のマンションの実態調査の結果などから、ヒアリング対象候補を15件選定します。NPO法人は、②で、その15件のマンションに対して専門家を派遣し、ヒアリングシートによりマンションの管理の状況を調査し、その調査結果を③で藤沢市に報告します。

第2段階では、支援が決定した管理組合の支援活動を実行します。①では、藤沢市がヒアリングしたマンションから5件を選定します。NPO法人では、これらのマンションに対し、②により専門家を派遣し、管理組合とともに管理運営の向上に向けた実行計画を作成して、管理の適正化に向けて一定期間にわたり支援を行います。支援期間の途中では、③において藤沢市とともに実行計画の進行推移を確認して、支援の進行の調整を行います。

第3段階では、支援の結果の効果と課題等を検証して対応策をまとめます。申しわけありませんが、最初の矢印の位置が反対になっていますので、下向きに直していただきたいと思います。

①では、NPO法人が支援の結果やアンケートなどから、支援の効果及び課題の検証を行って、②において対応策等を含めた報告書を作成し、藤沢市に提出します。藤沢市では、③で報告書の内容を確認し、④において市内の管理組合を対象に報告会を開催い

たします。

第4段階は、事業終了後の支援対策を策定し、市内のマンションに対して横展開を図っていく最後の段階になります。藤沢市は、①で報告書を参考に市内の住環境の維持・向上を目指してマンション管理の適正化に関する施策を推進していきます。NPO法人は、②により、市内のマンションの管理の適正化のために、事業の経験を踏まえた支援対応策を作成して、③では、今後とも藤沢市と連携してホームページやセミナー等の活用も含めまして、積極的に管理組合に対してアプローチをしていきます。

以上が、活性化事業の流れ及び藤沢市とNPO法人の役割分担の説明でした。

次に、10ページと11ページは、2年間の事業の詳細なスケジュールを記載したものです。10ページの1年目はヒアリングと事前の支援活動を行って、11ページの2年目では後期支援業務と総括業務を行うというスケジュールとしております。

12ページは、将来に向けての市内のマンションへのアプローチのイメージ図を示しております。事業1年目は支援マンションを抽出して、支援業務を開始。2年目は、管理組合への支援活動を継続して実施して、その結果に基づき体系的支援方法を確立します。さらに、報告会の開催などを通じて成果を広く周知していきます。3年目以降は、管理組合の管理の適正化のために市内のマンションに積極的にアプローチしていき、最終的な目標である良好な住環境の実現を目指して、安全・安心な地域社会を目指していきます。

13ページ以降は参考資料として添付しました。

14ページから16ページでは、管理組合へのヒアリング調査から……。

(森田部会長) 時間が超過いたしましたので、こちらで終了してください。

(湘南マンション管理組合ネットワーク) 以上で終わります。ありがとうございました。

(森田部会長) では、質疑応答の時間に入りたいと思います。いかがでしょうか。

(鍛地委員) 藤沢市さんにお伺いしたいのですが、発表の最初のあたりにありました、今はマンションの老朽化とか課題を感じていらっしゃるということで、市の課題から、今後こちらのNPOさんと協働されていくということですが、こちらの方々に限って協働されていくのはなぜというところがあります。

なぜかという、事業の中でマンションに最初にアプローチされるのは市役所様でいらっしゃると思います。そこから話を進めることになったときに、ではこちらのNPOさんをお願いしますという非常に限定的なのかなというところで、公平性とか公益性と

か、そのあたりはどのようなお考えなのかなと思いました。

(住宅政策課) 藤沢市と湘南マンション管理組合ネットワークさんとの関係性と、なぜこちらの団体さんなのかというところです。

まず、専門家の団体さんとしては、実際、県内で見ればほかにもありますが、今回、協働相手となりますネットワークさんにつきましては、湘南、藤沢市でそういった活動をされているというところで、藤沢市での具体的なマンション管理に関する取り組みを行っているところで、後援事業などを行っているところもこの1団体のみという現状でございます。そういったところから、こちらの団体と一緒に取り組みを行っていきたいと考えております。

(鍛地委員) ほかにマンション管理士さんみたいな方もいらっしゃると思いますけれども、同じような事業をされていらっしゃる企業とか団体さんはないのですか。

(住宅政策課) 個人的にとかの形でやられているところは、もちろんゼロではないですけれども、まず団体さんとしてやられているとか、市とのこれまでの関係性、連携は全くないという中で、実績という問題もありますので、そういったところから、今回こちらのネットワークさんとの実施と考えております。

(細沼委員) プレゼンありがとうございました。

今の鍛地委員の質問と少し似ているのですが、私も、どちらかという、市民活動というよりも、市のほうから今回これを協働したいように見える部分があります。そもそも市民活動を助成するというミライカナエルだと思うので、今のお話を聞くと、市の課題を助成金を使って解決するのかなと若干とれてしまう部分があります。

今回、NPOさんのほうではなく、市のほうから協働したいということで、これが企画されているのでしょうか。その辺を確認したいと思います。

(湘南マンション管理組合ネットワーク) ご質問ありがとうございます。

今回は、市からアプローチがあったわけではなく、私どもNPOのほうから市にお話を持ちかけさせていただきました。というのも、実は昨年度、ステップアップコースでもこの助成金をいただきまして、非常に有効に使わせていただきました。

今、住宅政策課からもお話があったように、確かにマンションにはいろいろ問題がありますが、ずっとこの団体で活動しておりまして、管理組合の中身をかなり見ております。藤沢市は築年数的にも高経年のマンションが結構ございまして、中身を見てみると、これは放置しておくちょっと大変だなと思いました。それで、藤沢市さんに、

こういったことで一緒にやっていただけませんか、そもそもこちらのほうからお話をさせていたでいるような感じでございます。

(坂井副委員長) ご説明ありがとうございました。

藤沢市には850棟の分譲マンションがあるというお話で、大変多いのですが、その中から15棟を選んでこの事業を進めるということです。その15棟を選ぶ考え方は、一番最初に藤沢市さんから説明があった、築年数が古いとか、あるいは高齢者が世帯主になっているとか、こういうところが優先されるという考え方でしょうか。

(住宅政策課) マンションの選定の方法は、今、藤沢市のほうで全件の外観調査とアンケートを実施しております。その中で、課題が見受けられるようなところを基本的にはピックアップしていく。

ただ、その中で、例えば今みたいに高齢化が進んでいるようなところであっても、しっかり皆さんで適正な活動ができている、もしくは自分たちでみずから主体性を持って相談に来ているところについては、むしろ皆様のほうが今動いていますので、そういったところは逆に省くような形です。

例えばアンケートの回答がなかったところとか、あとはアンケートの回答の中でも比較的状况が悪いとか、あとは、同じような状況のところをやるのではなく、最後は報告書としてマニュアルみたいなものをつくりますので、なるべくいろいろなパターンのもをピックアップしたい。例えば、管理組合の運営がうまくいっていないとか、開始するに当たって積立金を貯蓄しなければいけないのですが、そういった金銭面での問題があるところとか、そういった形の問題があるところの属性を見ながら15件をピックアップしていきたいと思っています。

(坂井副委員長) そうすると、募集をして、それに対して「うちをやってください」とか応募してもらうという形というよりも、それ以外の広範な、いろいろなことを聞くアンケートの中から、ここは必要性が高そうだというところを抽出して、そこにアプローチしていくという手順であるということですね。

(住宅政策課) そうです。管理組合の方から手を挙げていただくものではなくて、あくまでこちらでアンケートの結果から抽出させていただくという形で考えております。

(坂井副委員長) より必要なところに優先的に手が届くようなやり方をするというふうに理解させていただきました。

あと、アンケートに答えてくれないところもたくさんあると思います。市としては、

恐らくそういったところが課題になってくるだろうと思うので、この事業がもし実現すれば、やりながら、そういったところの対策もあわせて検討していただきたいと思います。

(住宅政策課) まさにおっしゃっていただいたとおり、アンケートの回答がないところが、こちらとしてもむしろ問題かなと捉えています。今回、実施する中では、あまりそこに注力し過ぎると事業が進まない場合がありますのと、あとは最終的な報告書をまとめるときにパターンが選べなくなってしまうという形もありますので、一部そういったアンケートの回答がなかったところも候補としては挙げつつも、了解を得られないこちらでもサポートができないので、最終的には向こうのご了解をいただいたところに対して、今回、5件という形で対応していきたいと考えております。

(森田部会長) 私からも一言、よろしいでしょうか。

予算についてですが、委員からも幾つか事前の質問がございました。人件費がかなり高い。その根拠として、設計業務の委託など、技術者単価を出していただいております。これを拝見すると、具体的にはマンション管理士さんとかではない、測量士さんだったりとかになっておりますし、その平均をとっておられるということで、果たしてこれは妥当なのかどうか、ちょっとまだ理解しかねるところがあります。そちらについてのご説明をひとついただきたいと思います。

あと、ご説明の中で、資料作成費も含めての専門家の単価であるとお示しいたしておりますけれども、予算の中では業務報告作成費はまた別途とられております。ここは、本来であれば専門家派遣費に入れるべきものではないかと思っております。そちらのご説明をお願いできますでしょうか。

(湘南マンション管理組合ネットワーク) 最初の質問のほうですが、確かに平均値をとらせていただきました。派遣のときには、もちろんマンション管理士であつたり、マンション管理士以外に、場合によっては専門家、他の士業の方たちにも同行していただくような形になります。この金額が高いか安いという話になりますが、本来の専門家の金額からすれば、もしかしたら安価かもしれないのですが、一応NPO法人ということなので、この金額で設定させていただいたような形になります。

ごめんなさい、2つ目の質問は。

(森田部会長) 専門家派遣の中には資料作成費も入っていると思いますが、それが別途業務報告……。

(湘南マンション管理組合ネットワーク) 報告に関しては、多分2年目のことをおっしゃられているのだと思います。

(森田部会長) いや、1年目も入っていませんか。業務報告書。

(湘南マンション管理組合ネットワーク) 報告書というのは、いわゆる結果報告はもちろん専門家派遣のほうに入っているような形になっています。ただし、今回の報告書は、もうちょっと分析した、今後のマンション運営に生かせるような形の報告書を提出させていただきたいと思っております。言い方は悪いのですが、行ったらこうだったという、ただの結果報告ではなく、もっといろいろな側面から見たアカデミックな形のものを作成して、市に提供したいと思っています。そこは行った結果報告ではなく、別のものを提出するということで、別建てで費用を掲載しているような感じでございます。

(大場委員) 発表ありがとうございました。

今回の計画の中で、マンションに住んでいる方々が負担するものは何もないのだなど。問題のあるマンションのケアをしていくということで、お金は取らないということなのだと思いますが、2年間の事業の後、マンションに住んでいらっしゃる方に対して一定の負担をとすることは考えていらっしゃるでしょうか。

(湘南マンション管理組合ネットワーク) 今回の計画は、2年間の中で、実際にそのマンションにおける問題点を把握して、それをこの2年間の中でどこまでやるかという計画を立てて、それが達成できたら、よかったねということでもあります。

認定制度がありまして、それだといろいろ17項目のチェックリストがあつて、それが完成すると、一応ちゃんとしたマンションだなというふうになりますが、マンションの中にはそこまでいかない段階で計画をつくる場合もあるわけです。そういうことをやっていると、その次に、3年目以降ももうちょっと続けたいというところが多分出てくる。それについては今回の事業とは別ですので、お互いにその気がおありになるのか、そのためにはこのくらいの費用がかかりますよと合意に達した段階で、次に進めるという流れだと思います。

(森田部会長) では、時間も過ぎておりますので、以上で発表を終わっていただきたいと思います。ありがとうございました。

(湘南マンション管理組合ネットワーク) どうもありがとうございました。

(森田部会長) ちょっと時間を過ぎて申しわけありません。

以上で全ての団体のプレゼンテーションが終了いたしました。団体の皆様におかれま

しては大変お疲れさまでございました。すばらしい発表をありがとうございました。

では、事務局のほうにお返ししたいと思います。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

(事務局) 森田部会長、どうもありがとうございました。

団体の皆様、発表どうもありがとうございました。採択結果は、年明けに郵送にてご案内いたします。

以上をもちまして、本日の公開プレゼンテーションは終了となります。

委員の皆様におかれましては、休憩をとっていただきまして、午後2時50分から、引き続き本会場で審査会を行いますので、よろしくお願いいたします。

発表団体の皆様、傍聴者の皆様におかれましては、出口にてアンケート用紙を回収いたしますので、ご提出の上、お忘れ物のないようお気をつけてお帰りくださいませ。

この後、こちらの会場を使用いたしますので、大変申しわけございませんが、速やかなご退席にご協力をお願いいたします。

また、本日、朝日町駐車場をご利用の方は、駐車券を職員までお渡しください。

本日はどうもありがとうございました。

(団体退室)

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

午後2時44分 休憩

午後2時50分 再開

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

(2) 審査選考

(藤沢市情報公開条例第6条第3号に基づき非公開)

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

○協働コースの審査選考において、採択団体は「六会リトルアンサンブル (MLE)」、協働相手は藤沢市教育委員会教育指導課、「特定非営利活動法人 湘南マンション管理組合ネットワーク」、協働相手は藤沢市住宅政策課と決定された。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

(事務局) 審査選考、どうもありがとうございました。

採択結果につきまして、後日、団体へ郵送させていただきます。また、結果の送付に合わせまして、団体への意見票にご記入いただきましたご意見も、団体へお送りさせていただきます。12月17日(火)中までとなりますので、すみませんがよろしくお願いいたします。

不採択団体につきましては、今後の活動に向けての応援等のメッセージ、あとはこういったところがもう少しご検討があったかなという形で、不採択の理由も、もしあわせていただけるような形であれば、ご入力をよろしくお願いいたします。

次回の委員会は、年明けの2月7日(金)、午前10時からZoomでの開催となります。詳細につきましては、後日、開催通知等でご案内いたしますので、ご確認いただけますようお願いいたします。

最後に、本日、朝日町駐車場にお車をとめた方は、駐車券を事務局へお渡してください。認証機の処理をいたします。

事務局からは以上となります。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

閉会

(山岡委員長) それでは、以上をもちまして第8回藤沢市市民活動推進委員会を閉会いたします。本日は長時間にわたりお疲れさまでした。ありがとうございました。

午後3時41分 閉会